

2018 年開催予定

第 18 回国際薬理・臨床薬理学会 (WorldPharma2018) の京都への誘致についての報告

招致委員会委員長 前理事長 成宮 周

日本薬理学会理事会では、1981 年東京 (江橋節郎会長) で行われた第 8 回国際薬理学会以来の当学会の誘致をかねてより計画してきました。当学会の開催は、4 年に一度行われる国際薬理学会期間中に IUPHAR の General Assembly が開催され、そこで各国薬理学会代議員の投票により予め予備審査で認められた立候補国 (当該国の薬理学会) の中から、次々回の開催担当国が決定されます。前回の北京で WorldPharma2014 誘致を凶った経験を元に、WorldPharma2018 開催に立候補をすることは大阪での第 83 回日本薬理学会年会での総会においてご承認頂いたところです。

去る 7 月 17 日から 23 日までデンマークのコペンハーゲン Bella Conference Centre で開催された第 16 回国際薬理・臨床薬理学会に際して、7 月 20 日 18:30 から IUPHAR の General Assembly が Duckles 会長および Enna 事務局長主導のもとに開催されました。2006 年の北京での General Assembly 以降の IUPHAR の活動内容や財務内容、規約の一部改訂、次期 IUPHAR 執行部の選出などが、まず行われました (日本からは副会長として三品教授に引き続いて、飯野教授が選出されました。これら議事についての詳細は別途の報告を参照ください。広報委員会注)。

今回の WorldPharma2010 から、これまで別々であった国際薬理学会 (World Congress of Pharmacology) と国際臨床薬理学会 (World Conference of Clinical Pharmacology and Therapeutics) が合同開催 (World Conference of Basic and Clinical Pharmacology 2010: WorldPharma2010) されるようになりました (合同開催による盛況・成果については星薬大 三澤教授が本号“学会便り p.245”で紹介されておりますので、是非お読みください。広報委員会注)。合同開催を反映して、投票権を有する日本の代議員団として日本薬理学会から成宮以下前理事会メンバー 7 名、臨床薬理学会から川合眞一理事長以下 3 名が General Assembly に出席しました。

次々回開催地決定議事に際し、6 つの立候補国の紹介に続いて、Bids for 2018 Congress として 6 カ国の薬理学会代表による 5 分間のプレゼンテーションが行われました。日本・京都以外ではブラジル・イグアス；カナダ・トロント；キューバ・パハマ；イタリア・フィレンツェ；マルタ・サンジュリアンが候補でした。日本からは成宮が飯野教授やコングレ (株) との協議で用意したプレゼン内容を発表しました。第一回投票の結果、京都とフィレンツェが同点首位となり、再投票でも接戦となったものの、多数の賛同を得て日本薬理学会の京都での開催提案が最終的に決定されました。

今回の誘致成功は、周到な準備とともに、臨床薬理学会の先生方と十分な協力関係が築けたこと、事前にオーストラリア・ニュージーランド薬理学会、中国薬理学会、韓国薬理学会、台湾薬理学会から京都開催へ全面的な協力を取り付けることができたことなどが、重要なポイントとなったと思われます。特に近隣国の協力を得られたことは、橋本敬太郎教授、遠藤政夫名誉教授、三品教授をはじめとする多くの理事 (長)・年会長経験者の方々が、長年に亘って世界およびアジア地域において薬理学会活動を行い友好関係を積み重ねられてきた結果が、今回の得票に大きく結実したものと考え、ここに深謝いたします。

この誘致決定が起爆薬となって、日本薬理学会がさらに充実、発展し、若手薬理学者の活躍により、東アジア・オセアニアとの協力の基に立派な WorldPharma2018 が開催されることを心から期待しております。

IUPHAR2018 招致委員会活動報告

飯野正光

本委員会は、日本薬理学会より成宮周、三品昌美、赤池昭紀、飯野正光、日本臨床薬理学会より川合眞一、渡邊裕司、小林真一の各教授で構成され、昨年 9 月から今年 6 月まで委員会を 3 回開催するとともに、7 月の IUPHAR 総会直前まで頻繁にメール審議を行いました。薬理学発展の基盤としての日本の先端的科学・技術力、両学会合わせて約 9,000 名の会員数、近隣諸国学会からの支援獲得、そして京都の魅力などを強調して招致活動を行いました。会員の皆様の支援が招致成功の根底にあることは成宮先生の報告文の通りです。IUPHAR2018 の開催が日本薬理学会の更なる発展の契機となることを期待します。